

死の灰を見つめて ——『フォールアウト』鑑賞の手引

中尾 秀博

はじめに

「フォールアウト」の語義を確認しておこう。『デジタル大辞泉』に拠ると

大気圏内核実験や原子力施設の事故などで大気中に放出された放射性物質が拡散し、地上に降下したもの（放射性降下物）。また、そうした人工放射性核種が降下すること。
→「死の灰」

とあり、『オックスフォード英語辞典』(*Oxford English Dictionary* 以下、OEDとする)の次の語義を補足し、アップデートしていることがわかる。

fall-out, sb. [f. vbl. phr. *fall out*: see FALL v. 94]

Radioactive refuse of a nuclear bomb explosion; the process of deposition of such refuse. Also *attrib.*, *Comb.*, *transf.*, & *fig.*

OEDの同項には初出例として1946年のヒロシマ原爆投下の影響に関する文章が採用されている。

ヒロシマとナガサキへの原爆投下によって、核兵器の開発を先導してきた米国が、軍事目的からの転換を主張したのが、1953年12月8日に国連総会で行われたアイゼンハワー大統領の「平和のための原子力」演説 (“Atoms for Peace” speech)であった。¹⁾「米国は、全身全霊をかけて、人類の奇跡の発明を、人類の滅亡のためにではなく、人類の生命のために捧げる方策を探し出す」という演説から三ヶ月も経たない翌54年3月1日には、現在でも米国の核実験で最大規模の「キャッスル作戦・ブラボー実験」 (“Castle Bravo”) が太平洋上のビキニ環礁で行われる。この実験で使用されたのはヒロシマに投下された「リトルボーイ」の一千倍の威力を持つ水素爆弾で、その影響はビキニ環礁に留まらず、非常に広範囲にわたってフォールアウトが観測されている。²⁾

* 本稿は、2015年10月18日に東京大学駒場キャンパス21KOMCEE East K212で開催されたCPAS・IHS共同主催 ドキュメンタリー映画FALLOUT上映会・討論会「『渚にて』再訪——核・ハリウッド・オーストラリア」での報告に加筆修正したものである。

¹⁾ “Atoms for Peace Speech,” International Atomic Energy Agency, accessed January 4, 2016, <https://www.iaea.org/about/history/atoms-for-peace-speech>.

²⁾ U. S. Department of Energy Nevada Operations Office, *United States Nuclear Tests July 1945 through September 1992* (Las Vegas: U.S. Department of Energy Nevada Operations Office, 2000), accessed January 4, 2016, http://www.nv.doe.gov/library/publications/historical/DOENV_209_REV15.pdf.

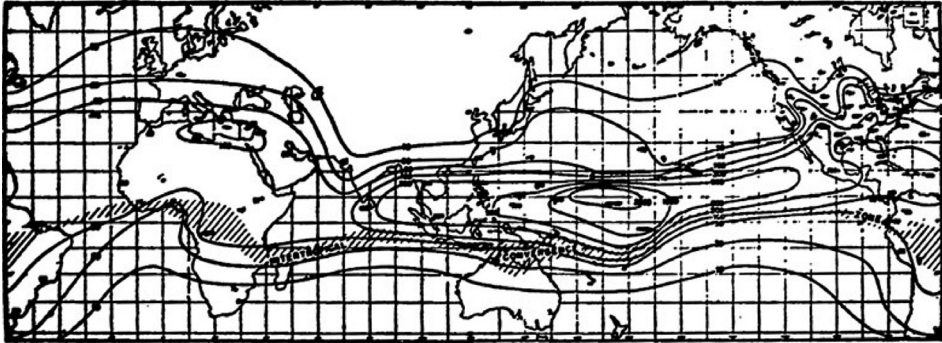
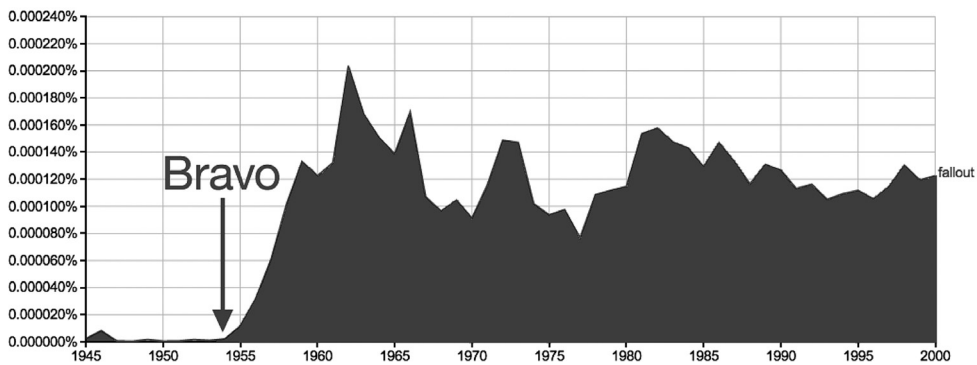


FIGURE 5.—Total radioactive fallout from the Bravo cloud in the period from 2 to 35 days after detonation, in millicuries per 160 square miles. Hatching indicates approximate March position of the Intertropical Convergence Zone, the belt of low pressure that tends to separate Northern and Southern Hemisphere air near the surface of the earth.

[世界フォールアウト地図]³⁾

この実験を契機として、フォールアウトという言葉の使用は、次のグラフを見れば一目瞭然であるが、急速に一般化する。同時に、アイゼンハワーの演説がきれいごとすぎなかったことも露呈した。



[[「フォールアウト」使用回数の年別グラフ]⁴⁾

1954年12月23日にバートランド・ラッセルがBBC放送で行った「人類の危機」演説 (“Man’s Peril” speech) および翌55年7月9日の「ラッセル＝アインシュタイン宣言」(Russell-Einstein Manifesto) には、アイゼンハワー「平和のための原子力」演説の楽天的な響きはない。眼前に待ったなしの「人類滅亡の危機」があるという切迫感が込められていた。⁵⁾

³⁾ Restricted Data: The Nuclear Secrecy Blog, run by Alex Wellerstein, accessed January 4, 2016, <http://blog.nuclearsecrecy.com/wp-content/uploads/2012/08/Bravo-cloud-35-days.jpg>.

⁴⁾ Restricted Data: The Nuclear Secrecy Blog, run by Alex Wellerstein, accessed January 4, 2016, <http://blog.nuclearsecrecy.com/wp-content/uploads/2014/02/Google-Ngram-Fallout.png>.

⁵⁾ 1955年3月1日には、英国首相チャーチルが水爆製造計画を発表している。

この「ラッセル＝アインシュタイン宣言」は、当時の反核および核実験反対運動を象徴しており、二人が訴えた「人類の危機」意識を共有する声は決して小さくはなかった。米国は58年10月31日に核実験のモラトリアム（一時停止）の実施を宣言し、ソ連も同年11月1日と3日に予定されていた実験は断行したが、その後モラトリアムに応じるようになった。

しかし1960年2月13日にフランスがサハラ砂漠で行った同国初の核実験「青いトビネズミ」によって、核実験モラトリアムは瓦解する。大規模かつ低い高度で行われた実験は膨大な砂塵を巻き上げ、フォールアウトは周辺諸国を含む広範囲に及んだ。フランスは「実験」という体裁を借りながら、植民地アルジェリアの独立戦争の戦場で「青いトビネズミ」作戦を断行し、その後の「和平交渉」を核兵器の脅威を笠に着て一方的に進めていった。⁶⁾

1962年10月のキューバ危機ほど「人類の危機」に近接した事件はないが、その前年の61年10月30日にソ連が行った史上最大の核実験「ツァーリ・ボンバ」(通称)の衝撃を忘れることはできない。フォールアウトがあまりにも広範に及ぶことが予想されたため当初の半分の規模に抑えて実施されたにもかかわらず、ヒロシマ「リトルボーイ」の3,300倍という桁外れのスケールは、世界を震撼させた。

「青いトビネズミ」が核実験モラトリアムの封印を破って始まった1960年代は、米ソ英の核実験「復帰」と、中国の新規「参戦」もあって軍拡競争の時代になる。⁷⁾ OED「フォールアウト」の用例の最後は、69年9月2日付け『タイムズ』紙に掲載されたビキニ環礁で被曝した日本人漁師、二人の死亡記事からであった。⁸⁾

近年では2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故で、再びフォールアウトが論じられることになった。当時「トモダチ作戦」に参加して宮城県沖で支援活動を展開し、深刻なフォールアウト被曝をした米国海軍第七艦隊空母ロナルド・レーガンが、15年10月1日に横須賀基地に配備されている。この原子力空母には福島第一原発の原子炉(BWR型・出力460MWt)を上回る出力の原子炉(A4W型・出力550MWt)が二基、搭載されているようだ。⁹⁾

1. 『フォールアウト』と先行作品

『フォールアウト』(*FALLOUT*, 2013)は、ハリウッド映画『渚にて』(*On the Beach*, 1959)の製作にまつわる論争を、製作の舞台裏、原作と原作者、核戦争と人類の終焉などについて、本篇・資料映像や関係者とのインタビューを中心に検証するドキュメンタリーである。ここでは先行作品との関係を、映画音楽という視点から見ていきたい。

映画『渚にて』で印象的なのは、テーマ曲に採用された「ワルチング・マチルダ」

⁶⁾ その後、同年中に三色旗の順番に「白いトビネズミ」(4月1日)「赤いトビネズミ」(12月27日)と核実験は続けられる。“Les essais nucléaires français,” SÉNAT, accessed January 4, 2016, <http://www.senat.fr/rap/r01-207/r01-2073.html>.

⁷⁾ 「復帰」(ソ1961.9.1、米61.9.15、英62.3.1)、中国の新規「参戦」(64.10.16)。

⁸⁾ OED用例は最初がヒロシマで、最後がビキニの後日談で、どちらも日本(人)絡み。

⁹⁾ “USS Ronald Reagan CVN 76,” accessed January 4, 2016, <http://www.uscarriers.net/cvn76.htm>.

(“Waltzing Matilda”) が作品中で何度も使われていることだろう。この曲はオーストラリアの非公式の国歌と称されるほど広く親しまれており、公式の国歌「アドヴァンス・オーストラリアン・フェア」(“Advance Australian Fair”) の楽天的な響きとは異なり、「空腹に苦しむ放浪者がはぐれた羊を食べてしまい、警官に追いつめられて沼に飛び込んで自殺する」という悲惨な内容の歌詞ながら、その親しみやすい曲調が根強い人気の源にある。¹⁰⁾

この「ワルチング・マチルダ」が映画の要所要所で流れてくることで、作品を包んでいる人類滅亡というペシミスティックな雰囲気、感傷的ではあるが効果的に演出されている。映画化によって付加された大きな魅力と言える。映画終了後も「ワルチング・マチルダ」の残響はなかなか消えない。『フォールアウト』中で紹介される『渚にて』本篇でもその切ない旋律は静かに響いており、『フォールアウト』全篇の裏テーマ曲と言うこともできるかもしれない。

『アトミック・カフェ』(*The Atomic Cafe*, 1982) は、核をテーマとする本格的なドキュメンタリー映画の嚆矢とされているが、最大の特徴は、その乾いたブラックユーモアが全篇を貫いている点にある。1940年代から60年代前半にかけてのニュース映像、テレビ・ラジオ番組、CMや連邦政府の広報映画などの資料映像から構成されているが、原子力時代の覇者を自認する連邦政府の不遜さを、背景に流れる同時代のアメリカン・ポップスの底抜けに楽天的な調子が裏打ちしているように響く。¹¹⁾ 核兵器の脅威の実態が正しく「広報」されていなかったという事実が、痛烈なアイロニーで演出されている。¹²⁾ 使用されているポップスの曲名を並べてみるだけで、『アトミック・カフェ』のブラックユーモアが理解できるだろう。¹³⁾

¹⁰⁾ “Bush songs and music,” Australian Government, accessed January 4, 2016, <http://www.australia.gov.au/about-australia/australian-story/bush-songs-and-music>.

“Australian Folk Songs,” Australian Folk Songs ... on the web since 1994, a selection by Mark Gregory, accessed January 4, 2016, <http://folkstream.com/094.html>.

Waltzing Matilda the musical, Submarine Media Pty Ltd, Waltzing Matilda the musical Pty Ltd, Edward Holding & Andrew Partington, accessed January 4, 2016, <http://www.waltzingmatilda.com.au/Craigielea.html>.

国歌「アドヴァンス・オーストラリアン・フェア」が、米国の第二の国歌と呼ばれる「ゴッド・ブレス・アメリカ」(“God Bless America”) 同様に、美しく豊かな国土を寿ぐ楽曲であるとすれば、「ワルチング・マチルダ」は、遠くケルト音楽の伝統に連なるスコットランドのフォークバラッド「汝、クレイグリーの美しき森よ」(“Thou Bonnie Wood O’Craigielee”) を元歌とするブッシュ・ミュージック(ブッシュ=オーストラリアのアウトバック)である。

¹¹⁾ “The Atomic Café,” American Film Institute, accessed January 4, 2016, <http://www.afi.com/members/catalog/DetailView.aspx?s=&Movie=56725>.

¹²⁾ 民間防衛広報用の短篇フィルム「ダック&カバ」(“Duck And Cover,” 1951) では、とっさの時に首をすくめて甲羅に身を隠す陸ガメのバート君のアニメーションが、万が一の核攻撃対処のお手本として示され、教室や街頭での予行演習の場面で実写で紹介されている。“Duck And Cover (1951) Bert The Turtle Civil Defense Film,” You Tube, accessed January 4, 2016, <https://www.youtube.com/watch?v=IKqXu-5jw60>.

¹³⁾ もう一曲の“Thirteen Women”(1954) は、曲名からは判然としないが、水爆攻撃で唯一生存した男について歌った「爆弾歌謡」(a Bomb tune) の代表作と評されている。http://www.atomicplatters.com/more.php?id=41_0_1_0_M.

- ♪ When the Atom Bomb Fell (1945)
- ♪ This Cold War With You (1949)
- ♪ Jesus Hits Like an Atom Bomb (1950)
- ♪ When They Drop The Atomic Bomb (1951)
- ♪ I'm No Communist (1952)
- ♪ Atomic Love (1953)
- ♪ The Hydrogen Bomb (1954)
- ♪ Atom Bomb Baby (1957)

『ザ・アトミック・ボム』(*Trinity and Beyond: The Atomic Bomb Movie*, 1995)の音楽はウィリアム・ストロムバーグ(William Stromberg)によるオリジナルで、モスクワ交響楽団が演奏を担当している。¹⁴⁾製作当時に米国政府の機密情報リストから除外されたばかりの資料映像も使用し、1945年7月16日に始まった狂気の原子力時代を再検証している。¹⁵⁾おぞましいほどの破壊力を持つ核実験が、映像的には魅惑的であるという戦慄するような背反に、ほとんど葬送曲のような陰鬱なオーケストラの響きが滲みわたる。この曲調はアントニー・パートス(Antony Partos)が作曲を担当した『フォールアウト』のストリングス中心の沈痛なオリジナル音楽に通じる。

『ザ・アトミック・ボム』の音楽は、人間と環境に関するドキュメンタリー映画の傑作『コヤニスカッツイ』(*Koyaanisqatsi*, 1982)の系譜に連なり、『フォールアウト』に引き継がれている。¹⁶⁾『コヤニスカッツイ』の音楽担当、フィリップ・グラス(Philip Glass)から『ザ・アトミック・ボム』のストロムバーグ、そして『フォールアウト』のパートスへと、確固たる問題意識、鋭い切り口を持つ三本の優れたドキュメンタリー映画が、三人の優れたオリジナル音楽で結びつく。ドキュメンタリー映画の最大の説得力は映像にあるが、その効果を最大限に引き出すのがBGMであることを見事に証明している。

2. 『宇宙戦争』の末裔

H・G・ウェルズ(H. G. Wells)の『宇宙戦争』(*The War of the Worlds*, 1898)は、火星人が地球を侵略するというSFの古典だが、「侵略もの」の元祖と言われるのは『ドーキングの戦い』(*The Battle of Dorking*, 1871)である。『ドーキングの戦い』の作者ジョージ・チェスニー(George Chesney)は、普仏戦争に勝利したプロシアに脅威を感じ、「プロシアが英国を侵略したら」という仮想で小説を執筆していた。ウェルズは、最強の外敵をプロシア

¹⁴⁾ “The Ultimate Film about Weapons of Mass Destruction,” AtomCentral.com, accessed January 4, 2016, <http://www.atomcentral.com/trinity-and-beyond.aspx>.

¹⁵⁾ 原題は1945年7月16日の人類初の実験に使用された原爆Trinityに因んでいる。

¹⁶⁾ 『コヤニスカッツイ』を第一作とする『カッツイ三部作』(*Qatsi Trilogy*)の音楽を担当したフィリップ・グラスがハリウッドの大作映画でも活躍しているように、『フォールアウト』のアントニー・パートスもハリウッドでの仕事を始めている。

から火星人に置き換えて、『宇宙戦争』を構想している。米国では、オーソン・ウェルズ (Orson Welles) 主宰の「火星劇場」(the Mercury Theatre on the Air) によるCBS放送のラジオドラマ『宇宙戦争』(1938. 10. 30) が聴取者に報道番組と誤解され、大パニックになったというエピソードはよく知られている。

ここでは映画『渚にて』をH・G・ウェルズの『宇宙戦争』の系譜に連ねてみたい。原子爆弾はヒロシマ・ナガサキ以降、実戦では使用されていないが、ハリウッド映画『宇宙戦争』(The War of the Worlds, 1953. 8. 13) では最強の外敵を迎撃するために使用されている。舞台はオーソン・ウェルズの「火星劇場」同様、原作の英国から米国に移されていた。

1950年代には、最強の外敵が核実験を契機として出現するという一連のSF映画が製作・公開された。日本では東宝映画『ゴジラ』(1954. 11. 3) が、ビキニ環礁の「ブラボー実験」でフォールアウト被曝した第五福竜丸の事故(1954. 3. 1)をヒントにしていることで有名だが、ハリウッドではその前年に『原始怪獣現わる』(The Beast from 20,000 Fathoms, 1953. 6. 13) が公開されている。¹⁷⁾

『放射能X』(Them, 1954. 6. 19) に登場するフォールアウト被曝して巨大化したアリは、ニューメキシコの砂漠での核実験を、『原始怪獣現わる』で太古の眠りから目覚める恐竜は、北極での核実験を想定しており、『ゴジラ』のように現実の事故を前提としているわけではない。『水爆と深海の怪物』(It Came from Beneath the Sea, 1955)、『タランチュラ』(Tarantula, 1955)、『戦慄! プルトニウム人間』(The Amazing Colossal Man, 1957) も同様で、核実験によるフォールアウト被曝と「最強の外敵」誕生の結びつきの安直さに、ジャンルとしてのB級らしさが発揮されているが、「侵略もの」に必須の「最強の外敵」たちは見事に原子力時代を体現している。この一連のSF映画をH・G・ウェルズ『宇宙戦争』の落とし子シリーズと呼んでみたい。

ゴジラの先駆けの「原子力」怪獣が登場して始まったB級モンスターたちによる50年代の「最強の外敵」シリーズは、英米合作の『大海獣ビヒモス』(The Giant Behemoth, 1959. 3. 3) で英国を——19世紀末にH・G・ウェルズの火星人が襲来した英国を——襲撃した「原子力」海獣ビヒモスで幕を降ろす。

同じ1959年に公開された『渚にて』(1959. 12. 17) は、原子力時代の暗い近未来を仮想したネヴィル・シュート (Nevil Shute) の原作 (On the Beach, 1957) を、ハリウッドの大スターを惜しげもなく起用して製作されている。¹⁸⁾ この映画をH・G・ウェルズ『宇宙戦争』

¹⁷⁾ 『ゴジラ』と同じスタッフで製作された東宝の『美女と液体人間』(The H-Man, 1958) は、『ゴジラ』同様に第五福竜丸被曝事故の延長線上で創案されており、両作品ともヒロシマ・ナガサキのトラウマを徹底させる作風が日本的である。

一般的に日本では、ヒロシマ・ナガサキの次に第五福竜丸の被曝事故が来るが、米国ではヒロシマ・ナガサキの前に人類初の核実験(1945.7.16)があり、54年のビキニ環礁「ブラボー実験」までに43回の実験を重ねている。核実験は主に国内のネバダ砂漠の試験場と太平洋上の二ヶ所で実施されていた。U. S. Department of Energy Nevada Operations Office, *United States Nuclear Tests July 1945 through September 1992* (Las Vegas: U. S. Department of Energy Nevada Operations Office, 2000), accessed January 4, 2016, http://www.nv.doe.gov/library/publications/historical/DOENV_209_REV15.pdf.

¹⁸⁾ 主役のグレゴリー・ペック (Gregory Peck)、ヒロインのエヴァ・ガードナー (Ava Gardner)、老いた科学者役のフレッド・アステア (Fred Astaire)、若い軍人役のアンソニー・パーキンス (Anthony Perkins) と同年アカデミー

の落とし子たちの中に置いてみると、「最強の外敵」が核兵器そのもの、あるいは核兵器の制御に失敗した人類そのもの、であったことが浮き彫りにされる。¹⁹⁾

3. 「闇の奥」の呪縛

ネヴィル・シュート『渚にて』の扉にはT・S・エリオット (T. S. Eliot) の詩「うつろな男たち」(“The Hollow Men,” 1925) の一節が引用されているが、小説のタイトルが「うつろな男たち」の詩句を踏まえているだけではなく、人類滅亡のイメージも借りていたことがわかる。²⁰⁾

In this last of meeting places
We grope together
And avoid speech
Gathered on this beach of the tumid river . . .

This is the way the world ends
This is the way the world ends
This is the way the world ends
*Not with a bang but a whimper.*²¹⁾

この詩の冒頭にはジョゼフ・コンラッド (Joseph Conrad) の『闇の奥』(*Heart of Darkness*, 1899) で現地の使用人が発する台詞「くるつサン—死ンダヨ」(Mistah Kurtz—he dead) が掲げられていた。²²⁾ つまり、「うつろな男たち」はクルツの死を告げる台詞を掲げて始まり、世界の終焉で閉じられる。

『闇の奥』が発表されたのはH・G・ウェルズ『宇宙戦争』の翌年だった。当時の英国は勢力の絶頂期にあって、1898年のクリスマスにはその広大な版図を図案化した切手が発

賞各賞を独占した『ベン・ハー』(*Ben-Hur*) にも引けを取らない豪華な顔ぶれであった。

¹⁹⁾ 1945年の『宇宙戦争』以来、ハリウッド映画では核兵器を人類最強の最終兵器として使い続けている。『インデペンデンス・デイ』(*Independence Day*, 1996)、『ディープ・インパクト』(*Deep Impact*, 1998)、『アルマゲドン』(*Armageddon*, 1998) では、核兵器の使用が人類の危機を救うことで決着する。

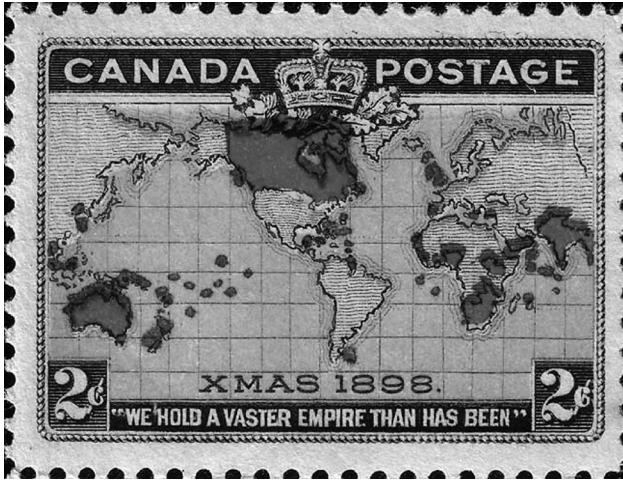
『渚にて』の系譜としては、『博士の異常な愛情』(*Dr. Strangelove*, 1964) が米ソの核戦争突入の不条理を描き、『未知の飛行』(*Fail Safe*, 1964) では米ソ核戦争の瀬戸際までの過程が描かれ、『猿の惑星』(*Planet of the Apes*, 1968) は人類が壊滅した後の地球を描く。また『トータル・フィアーズ』(*The Sum of All Fears*, 2002) や『ミッション：インポッシブル/ゴースト・プロトコル』(*Mission: Impossible — Ghost Protocol*, 2011) では、核戦争を仕組む狂人の陰謀を阻止するヒーローの活躍が描かれる。

²⁰⁾ 英国海軍用語では「陸にあがった」つまり「退役した」を意味する。http://www.hmsrichmond.org/dict_b.htm

²¹⁾ T. S. Eliot, “The Hollow Men,” in *Collected Poems of T. S. Eliot* (London: Faber, 1969), 85-86.

²²⁾ Joseph Conrad, *Heart of Darkness* (London: Penguin, 1983), 87. 「くるつサン—死ンダヨ」の翻訳は高松雄一『エリオット選集14』(彌生書房、1968年)、147頁。タイトルの「うつろな男たち」も高松雄一訳に拠る。

行されている。²³⁾



『闇の奥』のクルツが当時の植民地主義を狂信的に先導する人物だとしても、その死によって植民地主義の狂気が治まることはない。タイトルの「闇の奥」が含意するのは、その狂気を宿す西欧人の精神の根源の暗部であり、クルツの死後も根絶されない。植民地主義の延長戦上で戦われた第一次世界大戦の生存者をT・S・エリオットは「うつろな男たち」と呼んでいるが、その大戦後も「闇の奥」の呪縛は続いている。

その後、第二次世界大戦を経て、冷戦期に出版された『渚にて』で描かれる人類滅亡の最終場面は、英国人作家ネヴィル・シュートが最後の十年を過ごした豪州メルボルンに設定されている。『闇の奥』では豪州は以下のように言及されていた。

Now when I was a little chap I had a passion for maps. I would look for hours at South America, or Africa, or Australia, and lose myself in all the glories of exploration.²⁴⁾

1898年にカナダで発行された切手の世界地図が、中央に南北アメリカ大陸を配し、その西半球最大面積を誇示することで「西方の英国」(“Britain of the West”)としてのカナダをアピールしていたように、豪州も「南太平洋の英国」(“Britain of the Southern Pacific”)との自負を抱いていたが、世紀末の英国人にとっての豪州は、南アメリカ、アフリカと並んで、冒険心を刺激する周縁の未開地域でしかなかった。

その後も周縁に位置づけられ、人種・言語・宗教・文化など多分に共通点をもつ英米に対して、憧憬を軸としながらも両面感情を抱いている豪州を、シュートは人類最後の生存

²³⁾ RE-ENTRIES.COM, accessed January 4, 2016, http://www.re-entries.com/Images/Sc85_2A84_full.jpg.
底辺に配されている “We hold a vaster Empire than has been.” は1887年のヴィクトリア女王戴冠50周年記念頌歌の一節。1897年には戴冠60周年記念事業が行われた。

²⁴⁾ Conrad, *Heart of Darkness*, 8. 下線は筆者。

者を見送る地としている。第三次世界大戦によって、植民地主義時代の覇者である英国も、冷戦時代の米ソ両大国も減んだあとの「この最後の集まりの場」(“this last of meeting places”)としている。

『闇の奥』の植民地主義も、「うつろな男たち」の第一次世界大戦も、そして第二次世界大戦も、冷戦も、すべて西欧が主役を務めていた。周縁に位置づけられる南アメリカも、アフリカも、そして豪州も脇役に甘んじるしかなかった。植民地主義から冷戦まで、すべてに巻き込まれた南半球は、『渚にて』でも北半球が始めた第三次世界大戦のフォールアウト被曝によって終焉を迎える。

ネヴィル・シュートが豪州に視点を定めたことによって、「闇の奥」の呪縛の執拗なまでの非情さが際立つ。忍び寄るフェールアウトに苛立つモイラ (Moira Davidson) が漏らした一言 “There never was a bomb dropped in the southern hemisphere. Why must it come to us?” は「闇の奥」の呪縛に対する南半球からの精一杯の抗議の声であった。²⁵⁾

おわりに

闇にこだまするクルツの囁くような臨終の叫び (“The horror! The horror!”) ほど「闇の奥」の呪縛にふさわしい言葉はない。²⁶⁾ この叫びはT・S・エリオットの「うつろな男たち」を経由して『渚にて』にも通底し、モイラの声と響き合う。

1962年10月のキューバ危機に対処したJ・F・ケネディ大統領は、翌63年6月10日に行われたアメリカン大学 (American University) の卒業式で「平和の戦略」演説 (“The Strategy of Peace” speech) を行い、切迫する「人類の危機」について訴えた。²⁷⁾ ケネディ大統領は、このトピックを卒業式のスピーチに選んだ理由を、英国の桂冠詩人ジョン・メイスフィールド (John Masefield) の言葉を引いて説明する。メイスフィールドに拠れば、大学とは「無知を嫌悪する者が知を探求し、真実を理解する者が世間の目を見開かせることに努める場所」であるから、ケネディは「無知が蔓延し、ほとんど真実が理解されることのないトピック」「それでも最重要なトピック」つまり「世界平和」について「本日、ここで論じる」と語り始めている。

「真の平和とは何か」と問いかけるケネディは、軍事力により強制される「パックス・アメリカーナ」を否定し、核抑止力の欺瞞を責める。ケネディが訴えているのは単なる理想主義的な「世界平和」ではない。ケネディは絵空事の平和を信じるほど楽天的ではないが、戦争の不可避性を信じるほど悲観的でもない。米ソが互いに自省して、具体的な目標を設

²⁵⁾ *On the Beach*, (1957: Vintage, 2009), 39. 映画ではモイラ役のエヴァ・ガードナーが “It’s unfair because I didn’t do anything” と呟いている。

²⁶⁾ Conrad, *Heart of Darkness*, 86. 『闇の奥』中野好夫訳では「地獄だ! 地獄だ!」と訳されている。ジョゼフ・コンラッド、中野好夫訳『闇の奥』(岩波書店、1958年)、188頁。

²⁷⁾ “Commencement Address at American University, June 10, 1963,” John F. Kennedy Presidential Library and Museum, accessed January 4, 2016, <http://www.jfklibrary.org/Asset-Viewer/BWC7I4C9QUmLG9J6I8oy8w.aspx>.

定し、現実的な方策を模索することができる、と訴えていた。それが演題の「平和の戦略」の意味するところであり、実際にこの演説を聞いた当時のソ連の最高指導者フルシチョフが感銘し、二ヶ月後に核実験禁止条約が締結されることになる。たとえ「部分的」を冠する条約であっても、尊い第一歩ではあった。²⁸⁾

2013年に公開された『フォールアウト』には、ちょうど半世紀前のケネディの問いかけと共鳴する部分がある。²⁹⁾ この半世紀「無知が蔓延し、ほとんど真実が理解されることのない」状況が改善されているとは言いがたい。一方で、ケネディが訴えていた「平和の戦略」の具体性も、実現性も見失われた現在、『フォールアウト』から代わりの訴えは響いてこない。

『フォールアウト』は核実験を象徴するキノコ雲の映像で終了する。スクリーンには、爆発の閃光で鮮やかなオレンジ色に染まる巨大なキノコ雲が広がり、アントニー・パートスの沈鬱な旋律をストリングスが静かに奏でる。画面は次第に絞られる音量とシンクロして溶暗し、光と音の伝達速度の違いを想起させるように爆発の瞬間の地鳴りのような轟音が闇に響く。この閃光の後を覆う闇こそが表象としてのフォールアウト——闇として可視化された死の灰——に他ならない。

²⁸⁾ 1963年8月5日PTBT(部分的核実験禁止条約)英米ソ調印。その後1996年9月10日CTBT(包括的核実験禁止条約)国連採択(未発効)。

²⁹⁾ 『フォールアウト』は、ネヴィル・シュートの遺児の「自分の警告が今も有効であることに父は驚くと同時に失望を感じるだろう」というコメントで終わる。